

自然科学講演会

『エマージングウイルス感染症：現状と科学の最先端』

講師： 甲斐 知恵子 先生

東京大学医科学研究所教授

西アフリカのエボラ出血熱の大流行は世界を震撼させました。他にも SARS やジカ熱など未知の病原体が、近年次々と出現し人類の脅威となっていますが、このような感染症をエマージング感染症と呼びます。エマージング感染症は遠いアフリカや南米の奥地でのみ出現しているのではなく、実は我々の近隣のアジア諸国でも出現して人や家畜に大きな被害を及ぼしているのです。

1998 年、マレーシアの養豚地帯で脳炎が流行し 105 名が死亡しました。原因は、それまで未知であったニパウイルスの出現と解明されました。ブタを介して人に伝播したとわかったため、政府によるブタの大量殺処分によって流行は制圧されました。しかし、与えた経済的損失は国家経済を揺るがすほど大きく、人間社会にも甚大な被害を及ぼしました。その後、他のアジア地域で散発的流行が継続し、致死率はエボラ出血熱と同程度に高まっています。本講演では、エマージングウイルス感染症の現状を概説するとともに、どうして出現してくるのか等根本的謎に迫る基礎的研究や防御法開発研究などの科学の最先端を紹介し、人はどのように闘いあるいは共存していくのかを共に考えたいと思います。

日時：12 月 17 日(土)15:00～17:00

会場：お茶の水女子大学理学部 3 号館 7 階大講義室

会費：無料

申し込み：12 月 14 日(水)までに大学女性協会事務所へ

Tel: 03-3358-2882 Fax: 03-3358-2889 e-mail: jauw@jauw.org

甲斐知恵子先生のご略歴

1979 年東京大学農学部獣医学科卒業 1983 年 東京大学大学院農学系研究科獣医学専攻博士課程修了

1983 年 東京大学医科学研究所助手 1985 年 スウェーデンカロリンスカ研究所客員研究員

1988 年 東京大学医科学研究所助手復職 1991 年 東京大学農学生命科学研究科助教授

1999 年 東京大学医科学研究所教授 2000 年 東京大学医科学研究所附属実験動物研究施設長併任

2001 年 東京大学医科学研究所奄美病害動物研究施設長併任

2002-2004 年 東京大学医科学研究所ヒト疾患研究センター長併任

2002-2003 年 東京大学医科学研究所副所長併任

2005 年 東京大学医科学研究所感染症国際研究センター教授併任 2014 年 日本学会協議会員

主催：(一般社団) 大学女性協会 共催：お茶の水女子大学



地下鉄 丸の内線 茗荷谷駅下車 徒歩5分
有楽町線 護国寺駅下車 徒歩10分

南門は土曜閉鎖、東門(正門)とも学内掲示板があります
連絡先

〒160-0017 東京都新宿区左門町 11-6-101

(社)大学女性協会 科学研究奨励委員長 今野美智子
東京支部長 中山 正子